

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	下水道河川課長 杉浦 康史	
都整-25	下水道事業(企業会計)	☒ 自治事務	主管課	下水道河川課
		☐ 法定受託事務	関連課	道水路管理課・下水道経営課・作業センター・浄化センター
総合計画上の位置付け	分野	5-(6) 下水道・河川	施策の方針	5-(6)-①下水道の整備・管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	老朽化した下水道施設を計画的に維持管理し、安定的な下水道事業運営を行う。
効果	安定化した下水道処理が図られ、市民の生活環境の保全を図る。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・管路施設内の堆積物の除去、伏越箇所・浮遊物・堆積物の除去・清掃や蓋の不具合による振動・騒音の解消及び道路陥没の原因となる破損した取付管等の修繕や布設替えを行った。また、維持管理に係る一部業務(計画、点検、台帳電子化、住民サービス)を包括的に民間委託したことにより、維持管理の効率化を図った。	
・台風や大雨による溢水や洪水等の被害を未然に防ぐため、要望対応処理を含む施設の修繕・浚渫等を行った。また、維持管理に係る一部業務(計画、点検、台帳電子化、住民サービス)を包括的に民間委託したことにより、維持管理の効率化を図った。	
・宅内排水設備の設置に伴い、未設置となっている公共汚水ますを設置した。	
・汚水施設の未整備箇所を整備するため、汚水管渠築造工事(常盤枝線第1工区)を行った。	
・浸水被害解消に向け雨水排水施設を整備するため、前年度からの建設改良費繰越により雨水築造工事(大塚川排水区)、雨水築造工事(西御門川雨水幹線上流工区)を行い、ゼロ市債により雨水築造工事(関谷川第1雨水幹線)を行った。	
・経年劣化が著しい汚水管路施設を対象に、施設の機能低下、施設の破損等による道路陥没、浸入水による溢水などに対する予防保全措置を講ずるため、前年度からの建設改良費繰越による汚水管更生工事(由比ガ浜第2準幹線)、汚水管更生工事(西部準幹線)、汚水改築工事(西部圧送管)を行った。	
・経年劣化が著しい雨水排水施設を対象に、施設の機能低下、施設の破損等に対する予防保全措置を講ずる工事のための実施設計(逆川第1雨水幹線)を行った。	

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	汚水管渠費	包括的民間委託業務等	-	-	/	-	-
				290,833	/	294,515	301,143
02	雨水管渠費	包括的民間委託業務等	-	-	/	-	-
				45,093	/	76,044	71,901
03	汚水管路建設費	公共汚水ます設置業務、汚水築造工事等	-	-	/	-	-
				39,190	/	87,333	183,538
04	雨水管路建設費	雨水築造工事等	-	-	/	-	-
				44,479	/	60,280	215,760
05	汚水管路改良費	汚水改築工事等	-	-	/	-	-
				479	/	7,810	9,900
06	雨水管路改良費	雨水管渠等修繕改築実施設計	-	-	/	-	-
				12,346	/	53,020	36,520
07					/		
					/		
08					/		
					/		
		財源内訳	国県支出金	10,000	/		
			地方債	140,900	/	185,900	237,700
			その他特定財源	71,422	/	7,600	254,581
			一般財源	210,098	/	385,502	160,066
		事業費の合計(千円)		432,420	/	579,002	652,347
		人件費(千円)				47,190	51,222

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等		9	8	7	6	6
会計年度任用職員		2	2	1	0	0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	汚水管渠費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しない。	公共下水道を良好に維持管理することで、市民の生活環境の向上に寄与した。	飲食店へ、油分を流さないなどの啓蒙活動を行う必要がある。
02	雨水管渠費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しない。	公共下水道を良好に維持管理することで、市民の生活環境の向上に寄与した。	日常的に寄せられる要望については、要望内容を精査し、優先順位を決めて対応していく。
03	汚水管路建設費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しない。	下水道の普及により、河川、海洋の汚染防止に寄与した。	未整備箇所については地形上の制約等を受ける箇所が多く、整備の進捗が図れないのが現状である。
04	雨水管路建設費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しない。	公共下水道の整備を進め、市民の生活環境の向上に寄与した。	未整備箇所については、用地確保や支障物件への対応が課題となっており、整備の進捗が図れないのが現状である。
05	汚水管路改良費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しない。	下水道ストックマネジメント計画に基づき、緊急輸送路下の改良することで、防災・減災に寄与した。	重要施設および民間開発団地内での改良を行うため、新たな調査、設計を行う必要がある。
06	雨水管路改良費	下水道事業会計全体としての指標を設定し、最小事業評価としての指標は設定しない。	修繕・改築計画に基づいた実施設計を行うことで、予防保全措置に寄与した。	点検データ等を蓄積していき、修繕・改築の優先度、次期点検調査等の検討をする必要がある。
07	0			
08	0			
09	#REF!			
10	#REF!			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-1 受益者負担を求めているが、その額や対象等を再検討すべき事業がある
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
下水道施設の老朽化が進行しているため、ストックマネジメント計画により、修繕・改築を進めていく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	水質保全貢献率						単位	mg/l
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
公共下水道事業の大きな目的である「公共用水域の水質の保全」への貢献度を示すことで、都市の持続的かつ安定的な発展を目指すもの。 (放流水BOD)	目標値	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下	
	実績値	最大値 山崎浄化センター 10 七里ガ浜浄化センター 4.8	最大値 山崎浄化センター 12 七里ガ浜浄化センター 5.4	最大値 山崎浄化センター 8.0 七里ガ浜浄化センター 3.7	最大値 山崎浄化センター 9.1 七里ガ浜浄化センター 4.1	最大値 山崎浄化センター 14 七里ガ浜浄化センター 5.1		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)	公衆衛生貢献率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
公共下水道事業の大きな目的である「公衆衛生の向上」が安定的に実施されているか否かを示す係数 (365日-事故等により広範な地域に下水道の使用制限等を与えた日数)/365日	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)	生活利便影響率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
下水道使用者が、最終樹のつまり等で排水困難となり、生活の便利度にどの程度影響を与えたかを示す係数 (通報件数/現在水洗便所設置済人口(決算統計10表12列))×100	目標値	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下	
	実績値	0.02	0.02	0.04	0.03	0.03		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)	不明水率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
下水道事業における不明水は、下水道経営の悪化の原因になるとともに、衛生上のリスクの増大、公共用水域の水質保全などの影響が懸念される「下水道事業の問題のひとつ」であり、自治体自らが不明水の実態および不明水の増加傾向などを把握することで、より健全な下水道経営と様々なリスクの事前回避を実現することが可能となる。 (年間総処理水量(決算統計10表01行49列)-年間有収水量(決算統計10表01行52列))/年間総処理水量×100	目標値	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
	実績値	14.2	14.4	12.6	9.1	9.7		
	達成率	70.7%	69.6%	79.7%	109.7%	103.1%		

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--